

B5頁	場-No.	役名	台詞	
1-1	1-6	Philip	いろいろ聞いてるよ。	6/30
	1-7	Oliver	え？	6/30
	1-8	Philip	君のこといろいろ。	6/30
	1-9	Oliver	まいったな。	6/30
	1-10	Philip	全部いいこと。	6/30
	1-11	Oliver	ならよかった。	6/30
1-3	1-15	Oliver	その必要はないよ。	6/24
	1-40	Philip	氷と水？	6/30
	1-41	Oliver	ぜひ。	6/30
1-4	1-53	Philip	まあ、おかげで彼女は大忙し。妙な生きもののスケッチがあちこちに散らばってる。このあいだなんか、ぎょっとする絵がバスルームにあった。頭が二つあるアンテロープみたいな。実にそそられる。	6/24
1-6	1-96	Philip	お出ました。	6/30
1-10	1-176	Sylvia	でもその二年後、ロジャーが――	6/30
	1-177	Philip	兄のね。	6/30
	1-179	Philip	事故でね。兄のね。	6/30
1-11	1-187	Sylvia	フィリップはそういう突拍子もないことを考えるの、移住だなんて。	6/30
	1-188	Oliver	興奮するね。	6/30
	1-189	Sylvia	オーストラリアとか、カナダとか、そういうところ。	6/30
	1-190	Philip	新天地へ。	6/30
1-13	1-241	Oliver	大した話じゃないよ。何ならまたいつか。	6/30
	1-242	Sylvia	そこでオリヴァーにあることが起きたの。神秘体験って呼んでもいいかしら？	6/30
1-14	1-259	Philip	いつの日かね。	6/23
	1-260	Oliver	景色がね、あの構図。実にうっとりする。とても、とても劇的で。山の高いところにいるから、峰を見上げれば雪が残っている、でも眼下を見渡せば、斜面に広がるオリーブの林が銀に輝いて、海が見える。	6/30
	1-262	Oliver	コリント湾の水面が見える。そこには何か目を見張るものがあるんだ。つまり、真に、真に美しいもの。するとわかってくる、なぜギリシャ人はそこを神託を聞く場所を選んだか。たぶんこれほど美しく静かな場所なら何かの訪れを感じられる。自分の時間から連れ出してもらえる、時間のそとへ。より大きな絵が見える、というか。	6/30
	1-277	Philip	どうせ豚に真珠だよ。	6/30
1-15	1-280	Oliver	うん、いつの日か、何年も何年も先のこともかもしれないけれど、いくつかのことがらが理解されるようになる、僕らに具わったいくつかの側面についてもっと深く理解される、いま僕らが感じる困難も、いま僕らがしがみつく恐怖も、いま僕らが眠れない夜も、無駄ではなかったと思える日が来る……その時代を生きる人々は、五十年先、五百年先かもしれないけれど、その理解のおかげで幸せになってる、賢くなってる。より善き人間に。	6/30
1-16	1-281	Sylvia	素晴らしくチャーホフ的ね。	6/30
2-6	2-90	Man	でもキモくてさ。いの。	6/30
2-8	2-126	Philip	マジでふざけんよ。	6/28
	2-127	Oliver	これはべつに……	6/28
	2-128	Philip	俺はてっきり……	6/28
	2-129	Oliver	ヤベツすねー	6/28
	2-141	Philip	いい。すぐ行く。	6/28
2-9	2-142	Oliver	ゆっくりどうぞ。	6/28
	2-143	Philip	ベッドルームにある。	6/28
	2-144	Oliver	うん。ベッドの脇。	6/28
	2-145	Philip	すぐ終わる。	6/28
	2-146	Oliver	オッケ。	6/28
2-10	2-162	Philip	終わり。	6/30
	2-163	Oliver	よかった。	6/30
2-11	2-167	Philip	どうかな。	6/30
	2-168	Oliver	お願い。	6/30
	2-170	Oliver	ああ、あれ。	6/30
	2-171	Philip	そう。	6/30
	2-188	Oliver	お願いいて。	6/30
2-12	2-189	Philip	いたくない。	6/30

2-15	2-190	Oliver	お願い。――	6/30
			間。――	6/30
	2-225	Oliver	だめ。――	6/30
			間。――	6/30
	2-226	Oliver	オッケー。こういうことなんだ。自分でもわからないことがあって。わかりたいけど、わからない。―― 何かは僕のなかにある、ってゆーか。僕のDNAのなかに。――	6/30
2-16	2-227	Philip	なんなんだよ。――	6/30
2-18	2-268	Philip	君はあばずれだ、オリヴァー。頭悪すぎるあばずれだ。――	6/30
	2-269	Oliver	ありがとうございます。	6/30
	2-270	Philip	どういたしまして。――	6/30
2-19	2-292	Philip	どうせ男どうしだもんなっ、て考えた。みんな言うよね？ 男どうしだからだ。ゲイだからじゃない。男だから。男だからしょうがない。――	6/30
	2-293	Oliver	たしかにみんな言うね。――	6/30
	2-294	Philip	だけど俺には自分の感情しかわからない。あの晩ブリュッセルから戻ったとき、話聞かされたあと、ベッドに寝転んで天井見てた。あんな孤独を感じたのは生まれてはじめてだったよ。	6/30
2-22	2-319	Philip	行かないと。――	6/30
	2-320	Oliver	うん。――	6/30
	2-321	Philip	もういられない。――	6/30
	2-322	Oliver	うん。そうだね。――	6/30
3-1	3-9	Sylvia	今夜は楽しかった？	6/28
	3-10	Philip	実に楽しい夜だった。――	6/28
	3-11	Sylvia	本当に？	6/28
	3-12	Philip	ちょっと酔っ払った、あのひどいワインのせいだな。――	6/28
	3-13	Sylvia	三人ともよ。――	6/28
	3-14	Philip	でも申し分のない夜だった。――	6/28
			間。――	6/28
3-2	3-20	Philip	無口だと思ったなら、謝るよ。――	6/28
	3-21	Sylvia	そうじゃないの。責めてるんじゃない。ただの観察。――	6/28
	3-22	Philip	観察？	6/28
	3-23	Sylvia	大したことじゃないの……ちよっぴりふさいでるような気がしただけ。憂鬱そうな。――	6/28
	3-24	Philip	それは大げさだな。――	6/28
	3-25	Sylvia	気になることでもあるのかしらって。――	6/28
	3-27	Sylvia	そんなんじゃないの。――	6/28
	3-28	Philip	そう。――	6/28
3-33	3-39	Philip	ないから。それはまあはっきりしてた。――	6/30
	3-40	Sylvia	気が合うと思ったのに。――	6/28
	3-41	Philip	だってしょうがないだろう？ 相手は作家だし。とても知的で外向的、そうだろう？	6/30
3-4	3-54	Sylvia	まるで毛嫌いしてるみたい。――	6/28
	3-55	Philip	異議あり。――	6/28
	3-56	Sylvia	とことん嫌ってるみたい。――	6/28
	3-57	Philip	どう言っても、わかってもらえないんだね？	6/28
	3-58	Sylvia	オリヴァーがかわいそう。――	6/28
	3-59	Philip	彼を好きになることがどうしてそんなに大切なんだ？	6/28
	3-60	Sylvia	きっと気を悪くする。――	6/28
	3-61	Philip	どうしてそんなに大切なんだ？	6/28
	3-62	Sylvia	あなたが毛嫌いしてるんじゃないかと思ったら。――	6/28
	3-63	Philip	また大げさなことを。――	6/28
	3-64	Sylvia	忌み嫌ってるって。――	6/28
	3-65	Philip	どうしてそんなに大切なんだ？	6/28
			間。――	6/28
4-2	4-13	Sylvia	あんた、ウンコみたい。	6/28
4-7	4-94	Oliver	昔ゲイ雑誌の文通欄を見てたのね。ずっと昔。フィリップより前。そしたら一人目に留まってさ。こんな感じの――「ゲイ、三十三歳、ノンスモーカー、趣味はボンデージ、疑似レイプ、レザー、ラバー、チェーン、リミング、フェルチング。恋人募集中。それが僕の人生。	6/28
5-4	5-60	Philip	たしかに倒錯だ。	6/25
5-5	5-75	Philip	たしかに間違いだ。	6/25

5-7	5-91	Oliver	だって出会った瞬間から君だけが僕の本当の名前を知っていたように感じたんだ、まるで君だけが僕の本当の名前を知っていたように。	6/26
	5-93	Oliver	まるでおたがい僕らは同じ言葉を話しているような。	6/26